

# 緊急消防援助隊情報

## 令和元年度緊急消防援助隊近畿ブロック合同訓練の実施結果について

### 広域応援室・三重県実行委員会

令和元年度緊急消防援助隊近畿ブロック合同訓練は、消防応援活動調整本部を主軸とした、三重県及び被災市町の受援体制の総合的な向上を図ることを目的とし、三重県松阪市、津市及び伊賀市を会場に2日間実施した。三重県内陸部及び沿岸部の地域特性を反映した災害を想定し、緊急消防援助隊の出動体制及び、自衛隊、海上保安庁、警察、DMAT等の関係機関との連携について検証した。

#### 1 実施日

令和元年10月26日（土）、27日（日）

#### 2 実施場所

松阪市、津市、伊賀市

#### 3. 実施内容

##### (1) 図上訓練 10月26日（土）

三重県南東沖を震源とする巨大地震（南海トラフ地震）が発生し、東海地方において甚大な被害が発生した想定で、南海トラフ地震アクションプランに基づいて実施した。

訓練は、地震発生直後のフェーズ1、発生から4時間後の指揮支援隊が到着したフェーズ2、発生から24時間が経過したフェーズ3に分け、三重県庁内の消防応援活動調整本部と松阪地区広域消防組合消防本部及び津市消防本部の指揮本部（指揮支援本部）の3会場で行った。

##### 《今後の課題等》

○ 消防応援活動調整本部内の構成員間の連携の必要性を改めて感じたほか、緊急消防援助隊の制度・運用について個々のスキルアップが必要である。また、図上訓練の課題等の検証を経て緊急消防援助隊受援計画の見直しの必要性が確認できた。

○ 指揮本部・指揮支援本部において、現時点での受援計画をもとに訓練を実施したが、今後、交代要員の確保など長期的な対応も考慮していく必要がある。



図上訓練（26日）三重県庁

##### (2) 部隊参集訓練

一部ヘリコプターによる指揮支援隊の消防応援活動調整本部及び指揮支援本部への参集を実施するとともに、三重県内2箇所を進出拠点とし、受援消防本部による受援対応訓練及び地元消防団による進出拠点から災害現場までの誘導を実施した。

##### 《今後の課題等》

進出拠点を2消防本部が共有し運営を行ったことにより、受援対応職員は十分に確保ができた。また、部隊が進出拠点に集中した際に、緊急消防援助隊動態情報システムや支援情報共有ツールでの情報共有の重要性が再確認できた。



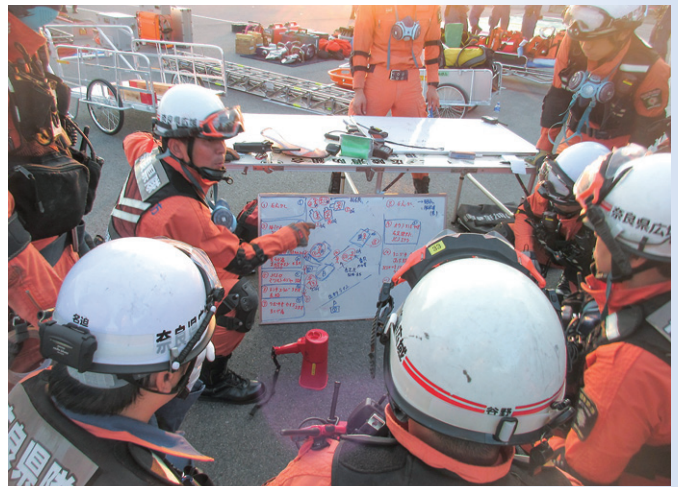
### (3) 部隊運用訓練想定

#### ◆1日目実動訓練 10月26日(土)

10月24日から三重県中部地方で停滞する前線により大雨が降り続けている中、三重県中部を震源とする直下型地震(発災時間8時30分)が発生し、甚大な被害が発生したと想定し、被災地消防本部及び緊急消防援助隊が連携し初動活動訓練を実施した。

#### ◆2日目実動訓練 10月27日(日)

三重県南東沖を震源とする南海トラフ地震(発災時間6時00分)が発生したと想定し、前日に引き続き、各災害現場において活動を実施するとともに、三重県内消防相互応援隊、緊急消防援助隊及び関係機関と連携した総合的な部隊運用訓練を実施した。



複合救助訓練(26日)伊賀市サテライト会場

### (4) 部隊運用訓練

指揮支援部隊長の部隊統制の下、地震被害を想定した各種訓練を松阪市メイン会場、松阪市、津市及び伊賀市のサテライト会場で実施した。

訓練1日目には、各防災航空隊による被害状況調査・情報収集訓練、無人航空機(ドローン)を活用した映像情報収集訓練を実施したほか、被災地消防本部と統合機動部隊、府県大隊が連携した土砂災害救助訓練等を部隊到着から夜間にかけて実施した。

訓練2日目には、関係機関と連携した救助訓練及び自衛隊航空機による部隊輸送、DMA Tと連携した多数傷病者対応訓練等を実施した。

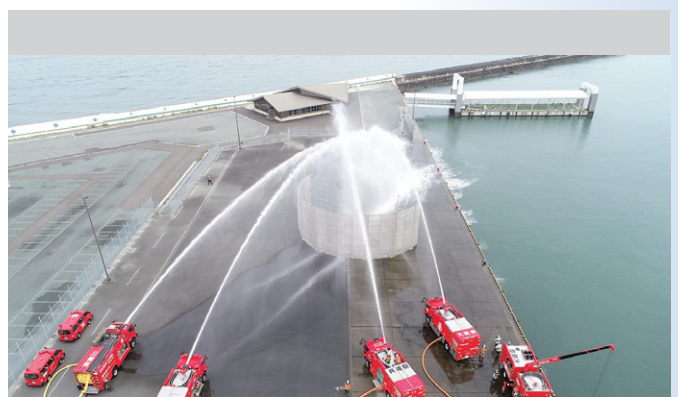
大規模危険物火災消火訓練では、四日市市、堺市、神戸市及びブロック外から名古屋市のドラゴンハイパー・コマンドユニットが連携して、屋外タンク貯蔵所の全面火災を想定とした大容量放水訓練を実施した。



斜面崩落救助訓練(27日)津市サテライト会場

### 《今後の課題等》

- 複数の府県大隊、関係機関が連携する訓練とし、現地合同調整所の運営調整を進めるとともに、指揮支援本部等で情報統制を行ったことで、円滑な情報共有を図ることができた。
- 実践的な訓練とするため事前に状況を知らせないブラインド型訓練とする場合には、訓練参加者に災害の状況付与をより丁寧に行うことが必要である。



大規模危険物火災消火訓練(27日)松阪市サテライト会場



#### (5) 後方支援活動訓練

宿営訓練会場を3箇所に分散し、拠点機能形成車等を活用し、後方支援活動を実施した。また、各府県から後方支援の状況紹介の場を設け、情報交換を行った。

#### 《今後の課題等》

宿営訓練会場を3箇所に分散することにより、3消防本部で受援の訓練が実施できた。宿营地のみの後方支援にとどまらず、災害活動が長時間になった場合の活動現場への後方支援活動を検討する必要がある。

#### (6) その他

2日目の松阪市メイン会場において、今回の訓練に参加した女性消防職員と三重県内女性消防職員を対象に、総務省消防庁の女性消防吏員活躍推進アドバイザー制度を活用し、「緊急消防援助隊への女性消防職員の派遣」をテーマにして、意見交換会を実施した。



女性消防吏員意見交換会（27日）松阪市メイン会場

#### 4. おわりに

今回の訓練は、雨が多い三重県の地理的条件を踏まえ、より実践的な訓練にするため、一部訓練項目を指定せず、各府県大隊が活動調整を行う訓練を実施した。

三重県においては、緊急消防援助隊の受援、部隊運用、関係機関との連携の強化や受援計画の見直し等、実災害への対応に向け有意義な訓練であった。

今後、今回の訓練で得た成果、課題等を踏まえ、緊急消防援助隊の応受援体制の更なる充実強化に努める必要がある。

最後に本訓練の開催に際しまして、多大なご協力を賜りました近畿ブロック各府県、参加各消防機関及び関係機関の皆様へ心より感謝申し上げます。

#### 問い合わせ先

消防庁国民保護・防災部防災課 広域応援室  
TEL: 03-5253-7527 (直通)